

TAKARABUNE 2025「風のカタチ 空のキオク」

空に浮かぶ雲を耕し始めた2022年が26作品、その後、昨年一昨年は22作品、そして今年は20作品と出展数はわずかに減少の傾向にあるTAKARABUNE展です。しかし476、717、818と、この数字は昨年までの来場者数の推移で、今年は雪混じりの冷たい雨で不安な初日を迎えたものの、その日の午後からはずっと晴天に恵まれ、嬉しいことに来場者数が926名、来年こそは大台にぞ欲張りとなる成長ぶりで「いやいやTAKARABUNEも知れ渡ってきたものだ」と悦に入っているところですよ。

そのTAKARABUNE 2025「風のカタチ 空のキオク」、あらためてその回想を文字に著すのも野暮なこと。ここに散らした写真やSMFホームページの中にある記録集で振り返っていただくことにします(展覧会やイベントの次第は末尾)。

ただひとつ、社会芸術/ユニット・ウルスの柳井嗣雄さんが杉皮を蜜蝋とワイヤーで力強く形作った「手の記憶」の展示を観たときのこと。

それは、初め立てかけられていた作品群が、あとで水平に壁に並べかえられ、作品の迫力が一変した驚きです。写真を見比べてみてください。

我田引水、ぼくの生業としている建築畑に喩えれば、どんなに一所懸命建物をデザインしても、

環境、まちなみ、歴史を忘れていると、同じ設計でも満点にも落第点にもなり得ることに似て、普段から建築は技術と言い張り、アートは作品として独立できる(だからホワイトキューブに価値があり技術と一線を画している)と羨望しているぼくに、アートでもそれが置かれる空間に左右されるものと知らしめてくれた一幕でした。

野暮と言いつながり長々と、これは蛇足かもしれません。

6月8日、定例フォーラムの午後、浦和サポートセンターで繰り広げられたラウンドテーブルはTAKARABUNEを振り返る1時間半、「夢」を「作品」を「活動報告」を語る熱意は衰えず百花齊放。その詳細を書き綴ると昨年のように冗長になりかねず、やはりそれらの区分けの周知がこれからの課題として繰り越されたことを報告するにとどめておきます。

「捧げるは愛のみ」というスタンダードの名曲があります。ぼくは中学生の頃パット・ブーン夫妻のデュエットを聴いて好きになった曲ですが、その頃にはディーン・マーチンでラジオからよく流れてきました。ドロシー・フィールズの作詞、ジミー・マクヒュー

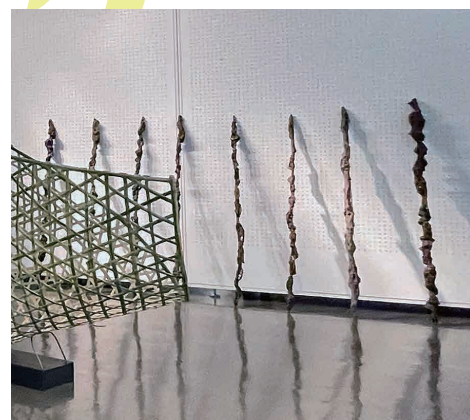
一の作曲だと言われています。同じ作者の「明るい表通りで(On the sunny side of the street)」同様、1930年代の不況時代に貧しくとも心は豊かにと「愛」を捧げるこの原題は「I can't give you anything but love」。

一世紀を経て同じようにあまり豊かではなく、同じように世界を弄ぶ独裁者が生まれてしまった現代で、最後をartに変えれば、ラウンドテーブルでのSMFの熱意を謳う曲名になりそうです。

しかし、笈田敏夫のライブでこの曲をリクエストした時に、しっかり発音しないと「愛以外は何でもありよ」という鼻持ちならないセリフになるぞと、唄と一緒にジョークも返された思い出があります。それから半世紀経って愛をアートに変えたときにも、気をつけないとそのジョークが通用してしまうハメに陥るかもしれません。

なにしろティファニーの前で交わされた若い恋人たちの会話から生み出されたという逸話で飾られた「捧げるは愛のみ」でさえ、ジミー・マクヒューらがアンディ・ラザフとファッツ・ワーラーとから買い取った作品だったという説はどうやらフェイクではなさそうだからです。

まあ、これもまた蛇足でした。ヘビがムカデになる前にパソコンから離れることにします。



▲立てかけられていた「手の記憶」



▲水平に並べかえられた「手の記憶」



TAKARABUNE 2025「風のカタチ 空のキオク」の記録

2025年3月19日(水)～3月23日(日) 埼玉県立近代美術館 一般展示室1

●出展数:20点 ●出展者:①石崎幸治、②絵手紙浦和会、③加藤典子、④金原京子、⑤クリスタルト・タス(jik & taco)、⑥シミスフローラルデザインスクール、⑦社会芸術/ユニット・ウルス、⑧SYUTA(三友周太)、⑨suzu、⑩出店久夫、⑪電子音響ビープルプロジェクト&東京電機大学「作曲音楽文化研究室」、⑫中村元、⑬中村隆、⑭西尾路子、⑮はたみき、⑯菱田祐一郎、⑰みやうか、⑱森久憲生(上尾アートセンター)、⑲矢花俊樹、⑳山口素子

●イベント:アーティストトーク連日 ●プロジェクトセッションパフォーマンス:「RECORD_T51 花風を纏う」随時

●制作実演:「ときどきキドキ同意Tシャツ」3月20日/「ようこそ絵手紙の世界へ」3月21日/「風のカタチ」を描こう!3月22日/「アートの素・バントリー自由創造ワークショップ」3月22日、23日

●野良の藝術2024関連パフォーマンス:踊り「Suikinkutsu」、詩の朗読「好音」、モダン・ダンス「かつて、緑の哲学を唱えた人がいた」3月23日